

令和 7 年度 国語科 3 学年 年間指導計画・評価計画

《 1 》教科の目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。

《 2 》各学年・各分野の目標
1、社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
2、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
3、言葉が持つ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

《 3 》評価の観点及びその趣旨

知識及び技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
思考力・判断力・表現力等	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
学びに向かう力、人間力等	言葉が持つ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

《 4 》観点別評価の評価基準と評定

観点別 評価基準	A	十分に満足できる状況である。（80％以上）
	B	おおむね満足できる状況である。（50％以上）
	C	努力を要する状況である。（50％未満）

評定	5	十分に満足できる状況であるもののうちで、特に程度が高いもの。（90％以上）
	4	十分満足できる状況である。（80％以上90％未満）
	3	おおむね満足できる状況である。（50％以上80％未満）
	2	努力を要する状況である。（20％以上50％未満）
	1	一層努力を要する。（20％未満）

《 5 》指導上の配慮事項

- ① 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図る。
- ② 必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫する。
- ③ 「話すこと・聞くこと」に関する指導については、音声言語のための教材を積極的に活用するなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
- ④ 「書くこと」に関する指導については、実際に文章を書く活動を重視する。
- ⑤ 「読むこと」に関する指導については、さまざまな文章を読んで、自分の表現に役立てられるようにすると

ともに、他教科等における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行う。

- ⑥ 言語能力の向上を図る観点から、外国語科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにする。
- ⑦ 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行う。
- ⑧ 道徳科などとの関連を考慮しながら、国語科の特質に応じて適切な指導をする。

[illegible]

	たことを伝え合う。 →P252「語彙ブック」(批評するときの言葉) 5 学習を振り返る。 ・人物像を表す語句や表現の中で、特に印象に残ったものを挙げる。 ・「握手」の展開のしかたには、どんな特徴や効果があったか、自分の言葉でまとめる。 ・ルロイ修道士について、友達と交流することで考えが深まったことを挙げる。		6 P28「漢字に親しもう1」の新出漢字を確認する。 →二次元コード「漢字一覧表」 7 練習問題に取り組む。 ◇熟語の構成、部首、漢字の音訓などの既習事項を思い出させる。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 →P306資「三年生で学習した漢字」 →P317資「三年生で学習した音訓」 →P318資「常用漢字表」	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
4月	【聞く】 意見を聞き、適切さを判断する 1時間 ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 坂本さんのスピーチの練習を聞く。 ・「中学生は全員、ボランティア活動をするべきだ」という坂本さんのスピーチを、メモを取りながら聞く。 ◇教科書を見せず、音声だけで内容を把握させる。 →二次元コード「坂本さんのスピーチ」 ・聞き取りメモと、P30「意見を聞き、適切さを判断するために」を基に、坂本さんの意見や、その根拠が適切かどうかを判断する。 2 スピーチをよりよくするための助言を考える。 ・坂本さんの練習相手になったつもりで、助言を考える。 ・自分で考えた助言を友達と共有する。 ◇別の聞き取り教材を教師が準備して、生徒に助言を考えさせてもよい。 →P262資「発想を広げる」 3 学習を振り返る。 ・相手の意見を聞き、適切さを判断するために、どのような点に注意して聞いたかを挙げる。	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ) →根拠としている情報について、事実関係や裏づけなどに注意して聞いている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →多様な考えをもつ聞き手の存在を想定しながら、意見と根拠、理由づけの適切さを判断し、改善策を検討している。 【態】聞き取った内容や意見と根拠の適切さを進んで評価し、今までの学習を生かして助言を考えようとしている。
4月	文法への扉1 「走って」いるのは誰？ 文法1 文法を生かす 1時間 ◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(2年知・技(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を	1	1 教材文を読み、文法的な観点から表現を見直すことの意義を確認する。 ・導入の課題に取り組み、AさんとBさんとの間で食い違いが生まれた原因について考える。 ・どうすれば食い違いが生じなかったのか、文法的な観点から話し合う。 →二次元コード「文法ワーク」 2 P230「文法1 文法を生かす」を読む。 ・文節・連文節の係り受けなど、既習の文法について理解を深め、文法の知識を表現や読解に生	【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(2年(1)オ) →既習の文法事項が、日常の会話や文章を見直したり文の表現効果を考えたりする際の判断基準になることを理解している。 【態】助詞や助動詞の働きなどを進んで振り返り、今までの学習を生かして設問に

	うことができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		があることを理解する。 3 相手や場に応じた表現について理解する。 ・「相手や場に応じた表現の選び方」を読み、相手や場にふさわしい表現を選ぶために、気をつけるとよいことを理解する。 ・P37下段「やってみよう」に取り組む。 4 学習を振り返る。 ・相手や場にふさわしい言葉遣い・表現を選ぶために、何に気をつければよいかを確かめる。	定しながら、適切な使い方を考えている。 【態】相手や場に応じた言葉遣いや表現の選び方について進んで理解し、今までの学習を生かして練習問題に取り組もうとしている。
5月	学んで時に之を習ふ ——「論語」から 漢文の訓読 2時間 ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★漢文を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1-2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 「論語」について知る。 ・教材冒頭の解説とP40のコラム「孔子と弟子たち」を読む。 ◇国語便覧や社会科資料集などを使って、孔子が生きた時代の歴史的背景などを確認させる。 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 「論語」を読み、孔子の考え方を読み取る。 ・教材の書き下し文や訓読文を、漢文の言い回しや歴史的仮名遣いと現代仮名遣いに注意して、繰り返し朗読する。 ◇必要に応じて、P38-40の脚注を参考に、訓読の方法や返り点の種類などを確認させる。 →二次元コード「『論語』朗読音声」 →P41「漢文の訓読」 ・教科書の現代語訳を基に、孔子が伝えたいことを要約する。 ◇生徒の実態に応じて、要約を家庭学習にしてもよい。 3 日常生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまると思われる体験を伝え合う。 ◇「論語」の他の章句も現代語訳を付けて紹介し、選択肢を増やすとよい。 4 学習を振り返る。 ・「論語」の中から、自分たちの生活に生かしていきたい言葉を選び、伝え合う。	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) →教材文を参考に歴史的背景を押さえ、教材の書き下し文や訓読文、現代語訳を読むことを通して、「論語」の世界に親しんでいる。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ) →日常生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまる体験を伝え合っている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →人間の生き方に関する孔子の考え方を、自分の生き方や生活と関連づけて考えている。 【態】人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見を持ち、今までの学習を生かして考えを伝え合おうとしている。
5月	季節のしおり 春 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	-	・春の気象にまつわる言葉や、春の情景を詠んだ俳句や和歌、漢詩を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P62「俳句の可能性」、P66「俳句の創作教室」、P68「俳句を味わう」、P150「君待つと」などの資料として用いてもよい。 ◇春をテーマにした他の詩歌を探し、交流させることもできる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →作品中の「春」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
2 視野を広げて				
5月	作られた「物語」を超えて 3時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →ゴリラの事例と人間社会の話に着目して、「具体と抽象」の関係を理解している。

	◎文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★論説などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	→二次元コード「ドラミングをするゴリラ」 2 論理の展開を捉える。 ・ゴリラの事例の概要を、教科書に示された3点に着目して捉える。(課題1-①) ・この文章の論理の展開を、教科書に示された2点に着目して捉える。(課題1-②) ◇「意見と根拠」「原因と結果」「具体と抽象」などの概念を使って、論理の流れや関係などを整理させるとよい。 →P51「カギ」「論理の展開を捉える」 →P52「思考のレッスン 具体化・抽象化」 →P258「窓」『『学びのカギ』一覧』(説明文) →二次元コード「学びの地図」 2 3 筆者の主張を捉える。(課題2) ・筆者は、作られた「物語」を超えて真実を知るために、どうすべきだと主張しているか、要約する。 →二次元コード「筆者インタビュー」 3 4 筆者の主張について考え、文章にまとめる。(課題3) ・筆者が指摘する人間の性質について、思い当たる事例を一つ挙げ、今後どのようなことを意識していきたいか簡潔にまとめる。 5 学習を振り返る。 →P51「言葉」 ・この文章の中で、具体と抽象の関係にあるものは何かを挙げる。 ・論理の展開を捉えるときには、どんな点に着目すると効果的か、自分の言葉でまとめる。 ・今後、自分が意見文を書く際に、論理の展開に説得力をもたせるために活用できそうな工夫を一つ挙げる。	【思・判・表】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →論説の特性を踏まえ、「具体と抽象」の関係に着目して、論理の展開のしかたを図式化するなどして捉えている。 【態】進んで文章の構成や論理の展開を捉え、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。
6月	思考のレッスン 具体化・抽象化 1 時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1 1 P52の教材文を通読する。 ・具体と抽象の関係で捉えられるものや、具体と抽象の関係にある論理の展開のしかたについて理解する。 ・下段の問題1に取り組む。 ◇P52「抽象への展開を示す言葉」を活用させる。 →P253「語彙ブック」(ものの見方を表す言葉) ・まとめた文をお互いに伝え合う。 2 P53の教材文を通読し、具体化と抽象化の程度について理解する。 ・下段の問題2に取り組む。 ◇「例えば」以外にも、P52「具体への展開を示す言葉」を活用させるとよい。 ・グループになって、各自が作った具体例の具体化の程度を順序づけ、全体に発表する。 ◇問題2の答えを付箋紙などに書かせておくと、グループでの分類作業が効率的に行える。 ◇ICT機器などを活用して、発表内容を全体で共有できるよう工夫するとよい。 3 学習を振り返る。 ・文章を読んだり書いたりするときには、具体と抽象の関係についてどんなことに注意すればよいか、確認する。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →具体と抽象の関係にある論理の展開のしかたや、具体と抽象の程度を捉えながら読んだり書いたりしている。 【態】具体と抽象の関係について積極的に理解し、学習した内容を生かして問題に取り組もうとしている。

6月	論理の展開を意識して書こう グラフを基に小論文を書く 4時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組みせるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 課題に沿って材料を集める。 ・P56の課題を正確に理解し、示された資料を読み解く。 ・読み取った事実と、その解釈やそれを基に考えたことを材料として書き出す。 ◇グラフの数値の読み取り方や分析の方法を話し合わせる。 →P56「問いを立て、考えを深める」 →P262【資】「発想を広げる」 →二次元コード「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内) →P265【資】「グラフの見方／引用・出典」 2 構成や内容を考える。 ・軸となる意見を決め、適切な根拠を選ぶ。 ・多様な読み手を説得できるよう、論理の展開を考え、文章の構成を工夫する。 →P55【カギ】「論理の展開を考える」 →P260【資】「『学びのカギ』一覧」(書く) →二次元コード「学びの地図」 3 小論文を書く。 ・規定の文字数を守り、考えがわかりやすく伝わるよう表現を工夫して書く。 →P56【言の葉】 →P252「語彙ブック」(批評するときの言葉) 4 交流する。 ・友達と文章を読み合い、論理の展開などについて助言し合う。 5 学習を振り返る。 ・資料から得たどのような情報を根拠とし、どのように意見と結び付けたか、自分の言葉でまとめる。 ・説得力のある小論文を書くために、論理の展開をどのように工夫したか挙げる。 ・友達と文章を読み比べ、説得力のある資料の活用のしかたについて考える。 ◇P54「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →資料から読み取った事実の中から、自分の意見を支える適切な根拠を選んでいる。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →課題に沿って資料を読み解き、読み取った事実と、自分の解釈や考えを整理して書き出している。 ・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →説得力のある文章にするために、論理の展開や意見と根拠、その結び付きを考えながら、文章の構成を工夫している。 【態】論理の展開や意見と根拠、それらを結び付ける「理由づけ」などを粘り強く考え、学習課題に沿って説得力のある小論文を書こうとしている。
6月	漢字 1 熟語の読み方 漢字に親しもう 2 1時間 ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え	1	1 P58導入の例から、漢字二字の熟語には、音または訓を重ねる読み方と、音と訓を組み合わせた読み方があることを知る。 2 教材文を読み、さまざまな熟語の読み方について理解する。 3 練習問題に取り組む。 ◇漢字の音訓、部首、送り仮名などの既習事項を思い出させる。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 →二次元コード「漢字一覧表」 4 P60「漢字に親しもう 2」の問題に取り組む。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →漢字の音訓や、熟語における音訓の組み合わせに注意して、漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

	合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		→ 二次元コード 「漢字一覧表」 →P306 資 「三年生で学習した漢字」 →P317 資 「三年生で学習した音訓」 →P318 資 「常用漢字表」	
3 言葉とともに				
6月	俳句の可能性 【書く】俳句の創作教室 俳句を味わう 4時間(読②書②) ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎俳句の構成や表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★ 俳句を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★ 俳句を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(2年思・判・表B(2)ウ)	1	◇「俳句の可能性」「俳句の創作教室」「俳句を味わう」は、関連させながら一体的に扱うとよい。 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 俳句の特徴を確認する。 ・リズムや言葉の響きに注意して、それぞれの俳句を朗読する。(課題1-①) ・俳句の決まり事や形式を確認する。(課題1-②) → 二次元コード 「漢字の練習」 2 筆者の評価のしかたを捉える。(課題2) ・それぞれの俳句に描かれた情景や心情と、筆者が着目した表現、その表現の効果として筆者が考えたことをまとめる。 2 好きな俳句を選び、鑑賞文を書く。 ・P62「俳句の可能性」やP68「俳句を味わう」から、好きな俳句を一句選ぶ。(課題3-①) ・表現の意図を考え、表現のしかたを評価して、200字程度の鑑賞文を書く。(課題3-②) ◇感じたことや想像したことだけではなく、そう感じさせた表現や特徴を具体的に示させる。 ・同じ俳句を選んだ生徒でグループを作り、鑑賞文を読み合う。 4 学習を振り返る。 ・俳句の表現意図や目的に対して、特に効果的だと感じた語句を挙げる。 ・友達の鑑賞文を読んで、新しく気づいた表現の魅力や工夫について、自分の言葉でまとめる。 ・表現のしかたの中で、俳句の創作に生かせそうなことを挙げる。	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →俳句で使われている語句の意味を理解したり、豊かなイメージを喚起する効果的な語句に着目したりしている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、俳句の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →語句の選び方や表現のしかたに着目して俳句を読み、筆者の評価のしかたを捉えている。 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いや考えがわかりやすく伝わるように、語句や表現を工夫して俳句を創作している。 【態】 進んで表現のしかたなどを評価し、学習課題に沿って鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている。
6月	言葉の釣り糸を垂らす 2時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識すると	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・新出漢字を調べる。 → 二次元コード 「漢字の練習」 2 題名の意味を捉える。(課題1) ・「言葉の釣り糸を垂らす」とはどうすることで、それによってどんな効果があるかを、まとめる。 2 筆者のものの見方や考え方について考える。 ・本文の例を参考に、「言葉の釣り糸」を垂らす「実験」を行うことで引き出された記憶や考えを、	【知・技】 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →文章中の語句・表現から、印象に残ったものや、よいと思ったものを挙げ、その理由や効果について考えている。 【思・判・表】 「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ)

	ともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★文章を読み、実生活への生かし方を考える。(思・判・表C(2)ウ)		200字程度でまとめる。(課題2-①) ・筆者は、「書く」ことを、どのような行為だと考えているかについて、「実験」をしてわかったことや、最後の一文を踏まえて、グループで話し合う。(課題2-②) 4 文章を読んでよいと思ったところを話し合う。(課題3) ・筆者のものの見方・考え方や、その伝え方、表現のしかたにおいて、よいと思ったところを話し合う。 5 学習を振り返る。 ・筆者が文章の中で用いた語句・表現の中で、印象に残ったものを挙げる。 ・筆者のものの見方・考え方に対する自分の考えは、「実験」の前後でどのように変化したか、自分の言葉でまとめる。 ・今後、文章を書くときに取り入れてみたいと感じた、筆者の提案や考え方を挙げる。	→筆者の「書く」ことに対する考えについて、自分の記憶や経験を踏まえながら考えている。 【態】筆者のものの見方や考え方を積極的に読み取り、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。
7月	言葉2 和語・漢語・外来語語彙を豊かに 時代や世代による言葉の変化 1 時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解することができる。(知・技(3)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 P72導入の例を基に、和語・漢語・外来語の表現を比較し、受ける印象の違いについて考える。 2 教材文を読み、和語・漢語・外来語・混種語について理解する。 ・例を参照しつつ、それぞれの特徴を理解する。 ・P73「生活に生かす」を読み、和語・漢語・外来語をどのように使い分けするのがよいか、生活の中の具体的な場面を想定して考える。 3 言葉の変化について知る。 ・P74「語彙を豊かに」の教材文を読み、「時代による言葉の変化」と「世代による言葉の変化」があることを知る。 ・これまでに読んだ本や世代の異なる人との会話などを手がかりにして、時代や世代によって意味や使い方が異なる言葉の例を探し、話し合う。 →P272 資「高瀬舟」 →P286 資「古典・近代文学の名作」 4 相手に合わせて、言葉を選ぶ。 ・話す相手を自由に設定し、P75上段にある文章をわかりやすく書き換える。 ・書き換えた文章を伝え合い、自分の文章を振り返る。 ・クラス全体で適切な言い方について確認する。 →P72「言葉2 和語・漢語・外来語」 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →和語・漢語・外来語について理解し、相手や場面に応じて適切に使い分けている。 ・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。(3)ウ) →古典や近代文学、年配のひととの会話の例などの中から、自分たちの世代とは異なる言葉の使い方を見つけている。 【態】進んで和語・漢語・外来語を理解し、今までの学習を生かして、相手や場面に応じて適切に使い分けようとしている。また、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて進んで理解し、学習課題に沿って相手や場面に応じた言葉を選んで伝えようとしている。
情報×SDGs				
7月	実用的な文章を読もう 報道文を比較して読もう 2 時間 (読①書①) ◎話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ) ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・	1	◇ここでの学習は、P84「情報整理のレッスン 情報の信頼性」と関連させながら扱うと効果的である。 リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 P76「やってみよう」①に取り組む。 ・下段の A・B から、青田市では、それぞれの物をどのように分別したらよいか、読み取る。 ◇分別のしかたが読み取れる部分に線を引いたり印を付けたりさせるとよい。 2 P77「やってみよう」②に取り組む。 ・グループを作り、実用的な文章には、他にどん	【知・技】 ・話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)ウ) →示された資料や身の回りの実用的な文章から、表現の特徴について理解を深めている。 ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →複数の資料を比較し、共通点や相違点を捉え、情報と情報との関係について理解を深めている。

	技(2)イ) ◎文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア) ★実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える。(思・判・表C(2)ウ) ★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	2	なものがあるか、具体的な例を身の回りから挙げる。 ・実用的な文章を読むときには、どんなことに注目して読めばよいか、考えて話し合う。 3 P78-81の報道文 A・B を通読し、P82「やってみよう」に取り組む。 ・示された観点を参考に、二つの記事を比べ、表に整理する。 ◇P82の表を基に、記事の内容を整理できるワークシートを用意するとよい。 ◇なかなか書きだせない生徒には、P83「達人の視点」を読ませて参考にさせたり、P253「語彙ブック」(ものの見方を表す言葉、情報を読み取って伝える言葉)に掲載された言葉を活用させたりするとよい。 ・表に整理したことを基に、記事について気づいたことや考えたことを300字程度でまとめる。 ・報道文を読むときに気をつけるとよいことについて考える。 4 学習を振り返る。 ・実用的な文章を適切に読み取るには、どのようなことに注意するとよいか、自分の言葉でまとめる。 ・報道文には、発信者の立場や意図が反映されていることを踏まえて、自分が今後、報道文を読む際に気をつけたいことをグループで伝え合う。 →二次元コード「漢字の練習」	・情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ) →発信者の立場や意図を踏まえ、情報の信頼性や妥当性を吟味している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →実用的な文章の特徴を踏まえ、目的に応じて情報を読み取っている。 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →事実や事例の選び方、取り上げ方や、語句・写真の選び方、レイアウトなどに着目して批判的に記事を読み、書き手の意図について考えている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →観点ごとに情報を整理し、情報の客観性や信頼性を確認している。 【態】 ・文章の種類を踏まえて、積極的に情報を読み取り、学習課題に沿って実生活への生かし方を考えようとしている。 ・文章の構成や論理の展開、表現のしかたなどを進んで捉え、学習課題に沿って報道文を比較し、自分の考えをまとめようとしている。
7月	情報整理のレッスン 情報の信頼性 1時間 ◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 P84の教材文を通読し、問題1に取り組む。 ・メディアが伝える情報は編集されているため、情報の信頼性を吟味する必要があることを確認する。 ・P84中段「チェックポイント」の観点を参考にし、P84下段の問題1に取り組む。 2 P85の教材文を通読し、問題2に取り組む。 ・同じ事実でも、情報の発信者の受け止め方や伝え方などによって、情報を受け取る側の印象も変わることを確認する。 ・P85上段 A・B を基に、客観的事実と思われる出来事を抽出し、発信者がどのような意図で報じたかを考える。 ・P85中段「チェックポイント」の観点を参考にし、P85下段の問題2に取り組む。 3 学習を振り返る。 ・情報の信頼性の確かめ方について、生活の中で大切にしたいことを挙げる。 ◇前の教材で扱った実用的な文章の信頼性と併せて振り返らせてもよい。 →P76「実用的な文章を読もう」 →P78「報道文を比較して読もう」	【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ) →情報の発信日時、発信源、情報を伝える目的などの観点から、情報の信頼性を確認している。 【態】積極的に情報の信頼性の確かめ方を理解し、学習したことを生かして問題に取り組もうとしている。

いつも本はそばに				
7月	読書を楽しむ 1時間 ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 さまざまな読書の楽しみ方について知る。 2 『私の一冊』の紹介、「ブックレビュー」、「三年間の読書の振り返り」の中から、夏休みに行く活動を選ぶ。 ・『私の一冊』の紹介、「ブックレビュー」を選んだ生徒は、2～6人程度のグループを作る。「三年間の読書の振り返り」は個人で行う。 ◇学校や地域の状況に応じて、教師が活動を決めてもよい。 ◇P94「本の世界を広げよう」のテーマや本を参考にして、取り組ませてもよい。 3 教材文に示されている各活動の内容に沿って、今後の見通しを立てる。 ◇活動計画などを示したワークシートを用意し、配付するとよい。 4 活動を行い、レポートか活動報告書を提出する。 ・「三年間の読書の振り返り」を選んだ生徒はP87を参考にレポートを、『私の一冊』の紹介または「ブックレビュー」を選んだ生徒はグループごとに活動し、活動報告書を夏休み明けに提出する。 ◇レポートや活動報告書を作成するためのワークシートを用意し、配付するとよい。 ◇次の教材『私の一冊』を探しにいこう」と併せて指導することも考えられる。 →P252「語彙ブック」(批評するときの言葉) →P256 窓 『『学びのカギ』一覧』(文学) →P258 窓 『『学びのカギ』一覧』(説明文)	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ →読書活動を通して、読書の楽しさや意義を発見している。 【態】進んで読書の意義と効用について理解し、学習の見通しをもって読書を楽しむ活動に参加しようとしている。
7月	「私の一冊」を探しにいこう 羊と鋼の森 読書案内 本の世界を広げよう コラム ためになるってどんなこと？ 1時間 ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を読み、本のさまざまな探し方について知る。 →二次元コード「漢字の練習」 2 学校図書館やインターネットを活用するなど、探し方を工夫して、興味をもてそうな本を探す。 ◇P94「本の世界を広げよう」を参考にしてもよい。 →P96「私の一冊」 →P97「ためになるってどんなこと？」 →P268 窓 「二つの悲しみ」 →P272 窓 「高瀬舟」 3 見つけた本を夏休みなどを利用して読む。 ◇読書活動を促すために、書評やポップを書く活動を取り入れるとよい。P88の例を参考にさせたり、書き方(あらすじや作者の紹介、引用のしかた、レイアウトの工夫など)を示したワークシートを用意して配付したりするとよい。 ◇本の魅力が伝わる書評やポップを作ること、そのために工夫が必要であることを意識させる。 →P252「語彙ブック」(批評するときの言葉) →P256 窓 『『学びのカギ』一覧』(文学) →P258 窓 『『学びのカギ』一覧』(説明文) ◇前の教材「読書を楽しむ」と併せて指導することも考えられる。 ◇本の探し方や書いたものを共有し、よいところを交流させるとよい。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ →本のさまざまな探し方について理解し、今後の読書生活への生かし方を考えている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →登場人物の生き方、作品に描かれた時代、社会状況などの観点から、自分の考えを書評などにまとめている。 【態】進んで本の探し方について理解し、今までの学習を生かして本を選んだり読んだことを書評などにまとめたりしようとしている。

7月	季節のしおり 夏 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	-	・夏の気象にまつわる言葉や、夏の情景を詠んだ俳句や和歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P62「俳句の可能性」、P66「俳句の創作教室」、P68「俳句を味わう」、P150「君待つと」などの資料として用いてもよい。 ◇夏をテーマにした他の詩歌を探し、交流させることもできる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →作品中の「夏」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
----	--	---	--	--

4 状況の中で				
8月	挨拶 ——原爆の写真によせて 2時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩の構成や表現のしかたについて評価することができる。 (思・判・表C(1)ウ) ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読し、当時の時代背景について確認する。 ・注意する語句を調べる。 ・作品ができた背景や時代背景を確認する。 ◇国語便覧や社会科資料集などで調べさせるとよい。 2 「顔」が象徴しているものを捉える。(課題1) ・詩の中で繰り返し出てくる「顔」が、それぞれ誰の、どのような様子を表しているのか考える。 3 表現の効果を評価する。 ・第6連にある「午前八時一五分は／毎朝やってくる」という表現の意味と、その効果を考える。(課題2-①) ・第7連にある「やすらかに 美しく 油断していた。」とは、どういうことか、「油断」という語句の意味や語感を踏まえて考える。(課題2-②) 4 自分の意見を述べる。(課題3) ・作者は、この詩を通して、誰に、どのようなことを伝えようとしたのか、現代社会の状況と重ね合わせながら、自分の意見を述べる。 →P252「語彙ブック」(批評するときの言葉) 5 学習を振り返る。 ・特に心に迫ってきた語句・表現を挙げる。 ・作者の思いや訴えを表すうえで、特に効果的だと感じた表現を挙げる。 ・詩を読み深めるための新たな視点や気づきをくれた、友達の見聞きを書き留める。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →語句の辞書的な意味や語感を踏まえて、文脈の中での意味や効果を考えている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、詩の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →詩に用いられている比喻や象徴的な表現の効果について、自分の考えをまとめている。 ・「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →現代社会の状況と重ね合わせながら詩を読み深め、作者の思いや考えに対する自分の考えをまとめている。 【態】詩の構成や表現のしかたを積極的に評価し、学習課題に沿って読み深めた詩について、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。
9月	故郷 5時間 ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ)	1-2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読し、作品の設定を捉える。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ・作品の舞台や時代背景を確認する。 ◇国語便覧や社会科資料集などで調べさせるとよい。 ・「私」と他の登場人物との関係を整理する。(課題1-①) ◇人物相関図などを使って整理させるとよい。 ・時や場所、人物に着目して、場面に分ける。(課題1-②) →P27カギ「展開のしかたを捉える」 2 場面や登場人物の設定に着目して読み深める。 ・ルントウとヤンおばさんについて、回想の場面	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。((3)オ) →文学作品を読むことが、自分の人生や自分が生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章を批判的に読み、観点を明確にして、作品のもつ特性や価値を批評している。

	◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	5	と現在の場面とを比べ、描写の変化を抜き出す。(課題2-①) ・ルントウと再会した場面で「私」が感じた「悲しむべき厚い壁」とは何か、考える。(課題2-②) ・最後の場面で「私」が考える「新しい生活」や「希望」とはどのようなものか、「私」とルントウ、ホンルとシュイションの関係などを踏まえて考える。(課題2-③) 3 読み深めたことを基に、作品を批評する。(課題3) ・作品のもつ特性や価値について、「学びのカギ」を参考に、観点を決めて批評する。 ◇描かれた内容を自分の知識や経験、考えと比べたり、別の視点や立場から作品を捉え直してみたりするなど、批判的に読ませる。 →P119 カギ「文学作品を批評する」 →P256 資『『学びのカギ』一覧』(文学) → 二次元コード「学びの地図」 →P119 言の葉 →P86「読書を楽しむ」 →P88『『私の一冊』を探しにいこう』 →P252「語彙ブック」(批評するときの言葉) 4 学習を振り返る。 ・生き方や社会を考えるうえで、読書にはどんな意義があると感じたかを挙げる。 ・作品を読んで、納得や共感ができたこと、できなかったことについて、自分の言葉でまとめる。 ・現代の日本とは異なる時代や状況を描いた小説を読む際、自分の考えをもつために必要だと思う観点を挙げる。	・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →「私」が考える「希望」や望む社会の在り方などについてどう考えるか、根拠に基づいて自分の意見を述べている。 【態】文章を批判的に読むことに積極的に取り組み、今までの学習を生かして小説を批評したり、自分の考えをまとめたりしようとしている。
9月	【推敲】論理の展開を整える 2時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ◎論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 P120上段の文章を通読したうえで、語句・表現や叙述のしかたを見直し、文章を整える。 ・示された三つの観点を参考に、それぞれの箇所を書き改める。 → 二次元コード「書くことのミニレッスン」 →P264 資「グラフの見方／引用・出典」 2 目的や読み手に合わせて、表現や論理の展開を整える。 ・示された四つの観点を参考に、課題に取り組む。 ◇「事実と意見」「意見と根拠」「具体と抽象」について、既習事項を振り返りながら課題に取り組ませるとよい。 2 3 読み手からの助言を踏まえて、確かめる。 ・書き改めた文章を友達と読み合い、よい点や改善点を出し合う。 4 学習を振り返る。 ・今後、自分で書いた文章の論理の展開を整えるときに生かしたいと思った点を挙げる。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →「事実と意見」「意見と根拠」「具体と抽象」など情報と情報との関係に着目しながら、課題に取り組んでいる。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。(B(1)エ) →目的や意図に応じた表現になっているかを確かめて、文章を推敲している。 ・「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →論理の展開について、読み手からの助言を踏まえて自分の文章のよい点や改善点を確かめ、必要に応じて整えている。 【態】目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く確認して推敲し、読み手からの助言や、情報と情報との関係についての知識を生かして、書き改めようとしている。
9月	言葉3	1	1 導入の例のような、一まとまりで決まった意味を	【知・技】理解したり表現したりするために

	慣用句・ことわざ・故事成語 1 時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		もつ言葉をできるだけたくさん書き出す。 →P250「語彙ブック」(慣用句・ことわざ・四字熟語・故事成語) ◇国語便覧などで調べさせてもよい。 2 教材文を読み、慣用句・ことわざ・故事成語の特徴や性質について理解する。 ・慣用句を使って短文を作る。 ・ことわざや故事成語の意味を調べる。 ・P123「生活に生かす」に挙げられている慣用句やことわざの誤用の例を、生活を振り返って探してみる。 ◇インターネットなどを使って、誤用例を検索させるのもよい。 3 学習を振り返る。 →二次元コード「漢字の練習」	必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →慣用句を使って短文を作ったり、ことわざや故事成語の意味や使い方を調べたりしている。 【態】慣用句やことわざ、故事成語の意味や使い方について積極的に調べて理解し、今までの学習を生かして短文を作ろうとしている。
10月	聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る 1 時間 ◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。(知・技(1)エ) ◎話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 対談の準備をする。 ・3～4人でグループを組み、話し手(1人)、聞き手(1人)、聴衆(1～2人)を決め、役割ごとに準備をする。 ◇話し手には、聞き手に話題を伝えたいうえで、特に話したいことを決めさせる。 ◇聞き手には、話題について調べ、質問を考えさせる。 →二次元コード「対談をする」 2 対談を行う。 ・1回5～7分程度で対談を行う。役割は順に交代する。 ◇聞き手には、以下のポイントを意識させる。 ・話題を選んだ意図や具体的なエピソードを聞き出して、相手の内面に迫る。 ・自分の感想や体験を交えることで、さらに話を引き出す。 ・聴衆も楽しめるように意識する。 →P36「言葉1 相手や場に応じた言葉遣い」 →P124「カギ」「質問で相手の思いに迫る」 →P260「資」『『学びのカギ』一覧』(話す・聞く) →二次元コード「学びの地図」 ◇話し手には、以下のポイントを意識させる。 ・質問に答える形で話す。特に話したい内容について質問されたら、そのことを伝えてから話す。 ◇聴衆には、対談の様子を観察させる。授業の最後に講評させてもよい。 ◇「相手や場に応じた言葉遣いができていたか」「話し手の内面に迫る質問ができていたか」など、評価の観点を示したワークシートを配付しておくともよい。 3 学習を振り返る。 ・話し手、聞き手、聴衆、それぞれの役割から、対談を通して気づいたことや考えたことを出し合う。	【知・技】敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。(1)エ) →対談の話し手や聞き手として、適切な言葉遣いを選択している。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)エ) →話の展開を予測しながら聞き、対談の中で、相手の思いに迫ることができた質問や話を豊かに展開させた応答は、どのようなものだったか捉えている。 【態】話の展開を予測しながら積極的に聞き、今までの学習を生かして対談しようとしている。
10月	漢字2 漢字の造語力 1 時間 ◎第2学年までに学習した常用	1	1 導入の文章を読み、新しい言葉が考え出された経緯を知る。 2 教材文を読み、「翻訳語」と「新しい語」の側面か	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に

	漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		ら漢字の造語力について知る。 3 練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 →二次元コード「漢字一覧表」 →P306資「三年生で学習した漢字」 →P317資「三年生で学習した音訓」 →P318資「常用漢字表」	示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →漢字の造語力を意識しながら、漢字の意味を理解し、読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
--	---	--	--	--

5 自らの考えを

10月	複数の意見を読んで、考えよう——正解が一つに決まらない課題と向き合う 3時間 ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★論説の文章を比較して読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 3人の筆者の提言を通読する。 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇通読後は、二次元コード「基礎資料」「筆者インタビュー」を確認・視聴させてもよい。 2 文章の要旨を捉える。(課題1) ・3人の筆者が、環境問題を解決するために、今、何が必要だと考えているか、それぞれの提言の要旨をまとめる。 ◇題名や文章の結論部に着目させ、筆者が読者に最も伝えたいことを捉えさせるとよい。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ) →一つの課題に対して書かれた複数の文章を読み比べることが、自分の生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →観点を決めて文章を比較したり、自分の知識や経験と照合したりしながら批判的に読み、筆者のものの見方や考え方について考えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →提言の内容、論理の展開、表現のしかたなどについて、自分の知識や経験と結び付けたり、討論したりして、評価している。 【態】三つの文章を批判的に読むことに粘り強く取り組み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている。
		2	3 文章を比較して評価する。 ・観点を決めて文章を比較し、それぞれの特徴を表にまとめる。(課題2-①) ・提言の内容、論理の展開、表現のしかたなどを、自分の経験や読書などで得た知識と照合して吟味し、評価する。(課題2-②) →P135カギ「文章を批判的に読み、評価する」 →P258資「『学びのカギ』一覧」(説明文) →二次元コード「学びの地図」 →P54「論理の展開を意識して書こう」 ◇P134に示された観点別の表をワークシートにして配付し、文章の比較から明らかになった特徴をまとめさせてもよい。 ◇3人の筆者のものの見方・考え方について、自分の知識や経験、他の人の考えなどと比べながら、批判的に読ませる。 ◇三つの提言をどのように評価したか、根拠を明確にさせる。	
		3	4 グループで討論し、提言に対する評価を基に、自分の考えをまとめる。 ・三つの提言をどう評価するか、グループで討論する。(課題2-③) ・討論を踏まえ、自分の考えをまとめる。(課題3) ◇教科書に示された書きだしを参考に、三つの提言に対する自分の考えをまとめさせる。 5 学習を振り返る。 ・文章を吟味するとき、読書を通して得た知識をどのように役立てたか、自分の言葉でまとめる。 ・文章を批判的に読み、評価するとき留意すべきことは何か、考える。	

			・今回身につけた文章の読み方の中で、次に論説を読むときに役立ちそうだと思うものを書き留める。	
10月	考えを効果的に伝えよう 多角的に分析して批評文を書く 5時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	1 2 3-4 5	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組みせるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 題材を選ぶ。 ・地域社会で見聞きしたことや、新聞、テレビなどのメディアを通して知ったことの中から、関心のある事柄を選ぶ。 →P262資「発想を広げる」 →二次元コード「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内) ◇先にP139「批評文の例」を読み、批評文のイメージをつかませてもよい。 2 観点を決めて分析する。 ・観点を決めて問いを立て、考えを深める。 →P265資「グラフの見方／引用・出典」 ◇「発信者の意図」「相手意識」などについて分析させる。 ◇P138「分析する」を読み、問いを立て、考えを深める際の参考にさせる。 ◇自分の考えについて、具体的な根拠や資料などを挙げさせて、説得力をもたせる。友達と意見を交流させて、さらに考えを深めさせるとよい。 3 構成を考える。 ・自分の考えをわかりやすく伝えるための論理展開や表現のしかたを考える。 4 批評文を書く。 ・600～800字程度でまとめる。 →P137カギ「論理の展開や表現を工夫する」 →P260資「『学びのカギ』一覧」(書く) →二次元コード「学びの地図」 →P138言の葉 →P252「語彙ブック」(批評するときの言葉) ◇タブレット端末などを活用し、下書き段階で、論理の展開や表現のしかたなどをどのように推敲したか、情報共有させるとよい。 5 友達と文章を読み合う。 ・批評に有効な観点や表現、論理展開などについて話し合い、互いに助言する。 →P337資「ICT活用のヒント」 ◇タブレット端末などの共有機能を活用し、助言や感想を交流させるとよい。 6 学習を振り返る。 ・どのような具体例を挙げ、どのように自分の考えと結び付けたか、自分の言葉でまとめる。 ・自分の考えをわかりやすく伝えるために、どのような工夫をしたか、自分の言葉でまとめる。 ・友達の文章を読み、物事を批評するときに、今後参考にしたいと思った分析の観点や表現の工夫を挙げる。 ◇P136「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →「意見と根拠」「具体と抽象」など、情報と情報との関係に関する知識を生かして論理の展開を考えている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →文体や表現技法などを検討したり、自分の意見を支える根拠となる資料を引用したりして、文章表現を工夫している。 ・「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →読み手からの助言を踏まえて、自分の批評文における批評の観点や表現、論理の展開などのよい点や改善点を見いだしている。 【態】自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように、粘り強く工夫し、学習の見通しをもって批評文を書こうとしている。

			い。	
10月	漢字に親しもう3 文法への扉2 「ない」の違いがわからない？ 文法2 文法のまとめ 1時間 ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ◎単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について理解することができる。(知・技1年(1)エ、2年(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 新出漢字を確認する。 →二次元コード「漢字一覧表」 2 練習問題に取り組む。 →P240「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P306資「三年生で学習した漢字」 →P317資「三年生で学習した音訓」 →P318資「常用漢字表」 ◇部首、漢字の音訓などの既習事項を思い出させる。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 3 P141「文法への扉2」を読み、「ない」の文法上の違いを理解する。 ・「ない」という語が意味や用法によって、形容詞、形容詞の一部、助動詞に分類されることを知る。 →二次元コード「文法ワーク」 →P228「文法 一、二年生の復習」 ◇それぞれの見分け方を理解させる。 4 P233「文法2 文法のまとめ」にある文法の問題に取り組む。 ・3年間の文法の学習を思い出し、文の組み立てや単語の種類と働きなどについて復習する。 →二次元コード「練習問題」	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。 【態】今までに学習した知識を生かして、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。 【知・技】単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について理解している。(1年(1)エ、2年(1)オ) →言葉の単位、文の組み立て、単語の分類、自立語、用言の活用、付属語など、3年間で学習した文法の内容を理解している。 【態】単語の類別や活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について進んで理解し、今までの学習を生かして課題に取り組もうとしている。
10月	聴きひたる 初恋 1時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 朗読音声を読み、言葉の響きやリズムを味わう。 ・近代に作られた文語定型詩を読み、響きやリズムなどについて気づいたことを話し合う。 →二次元コード「朗読音声」 2 語句の意味や表現に込められた作者の思いを読み取り、感じたことを発表し合う。 ・詩に描かれた情景と詩の中の人物の心情を想像する。 ◇「初恋」という詩から読み取った思いと自分の経験とを結び付けて想像させる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →語句や表現に着目したり、言葉の響きやリズムを味わったりしながら詩に描かれた情景や心情を想像している。 【態】進んで語感を磨き、今までの学習を生かして作品を読んだり自分の考えを述べたりしようとしている。
10月	季節のしおり 秋 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	-	・秋の気象にまつわる言葉や、秋の情景を詠んだ和歌や俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P62「俳句の可能性」、P66「俳句の創作教室」、P68「俳句を味わう」、P150「君待つと」などの資料として用いてもよい。 ◇秋をテーマにした他の詩歌を探し、交流させることもできる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →作品中の「秋」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。

6 いにしへの心を受け継ぐ				
11月	和歌の世界 音読を楽しむ 古今和歌集 仮名序 1時間 ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 P146「和歌の世界」を読む。 ・「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」について興味をもち、三大和歌集についての特徴や歴史的背景などをおおまかに捉える。 ◇P150「君待つと」と併せて学習させてもよい。 ◇P286【資】「古典・近代文学の名作」やP292【資】「日本文学の流れ」で文学史を知り、歴史的背景に興味をもたせるとよい。 2 P148「古今和歌集 仮名序」冒頭部分を朗読し、作者の思いを想像する。 ・歴史的仮名遣いに気をつけて朗読し、古文の言葉の響きやリズムを味わう。 →【二次元コード】『「仮名序」朗読音声」 ◇「和歌」を植物にたとえていることを知り、現代語訳や語注を参考に、作者が和歌をどう捉えていたかを想像させる。	【知・技】 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) →「和歌の世界」と「古今和歌集 仮名序」を読み、三つの歌集の特徴や歴史的背景、和歌に対する古人の思いを捉えている。 【態】 進んで古典の世界に親しみ、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
11月	君待つと ——万葉・古今・新古今 2時間 ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎和歌の表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★和歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 歴史的背景を捉える。(課題1) ・P146「和歌の世界」やP148「古今和歌集 仮名序」を読み、三つの歌集の特徴や時代背景をおおまかに捉える。 →【二次元コード】「漢字の練習」 2 和歌の表現について話し合う。 ・声に出して和歌を読み、そこに詠まれた情景や心情を、現代語訳を基に想像する。(課題2-①) →【二次元コード】「万葉・古今・新古今 朗読音声」 ◇歴史的仮名遣いに気をつけて朗読させ、脚注を参考に、長歌や反歌など和歌の形式を味わわせる。 ・三つの歌集に収められた和歌を比較し、それぞれの歌集に特徴的な表現やその効果について、気づいたことを話し合う。(課題2-②) 3 表現のしかたについて評価する。(課題3) ・和歌を1首選び、表現のしかたに着目して自分の評価を短くまとめる。 →P42・P98・P144・P185「季節のしおり」、P168「古典名作選」の和歌などを用いて選択肢を増やしてもよい。 ◇自分の選んだ和歌に用いられている表現技法に気づかせ、グループで共有させる。 ◇P155「和歌の表現技法」を読み、他の表現技法について興味をもたせることも考えられる。 ◇和歌の歴史的背景や現代に通じる点についてもまとめさせるとよい。 4 学習を振り返る。 ・和歌の時代に生きた人々と現代の私たちの共通点・相違点は何か、自分の言葉でまとめる。 ・どのような表現のしかたに着目して和歌を評価したか、自分の言葉でまとめる。 ・友達の考えを聞いて新たに気づいた和歌の魅力を挙げる。	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) →三つの歌集の歌を音読したり、比較したりして、そこに詠まれた情景や心情を想像している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ) →自分が注目した表現を引用しながら、和歌を評価している。 【思・判・表】 「読むこと」において、和歌の表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →三つの歌集に収められた和歌を比較し、特徴的な表現やその効果について、評価している。 【態】 進んで和歌の表現のしかたについて評価し、学習の見通しをもって自分の評価を書こうとしている。
11月	夏草 ——「おくのほそ道」から 3時間	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を声に出して読む。(課題1)	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。

	◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★古典の文章を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	2 2 芭蕉のものの見方や感じ方を読み取る。 ・芭蕉の「旅」についての考えが読み取れる部分を抜き出して、現代の旅がもつ意味と比べる。(課題2-①) ・芭蕉が高館や光堂で何を見て何を感じたのかを考える。(課題2-②) →P164 「俳句と俳諧」 ◇歴史的仮名遣いの読み方に注意させる。 3 3 心に響く俳句について発表する。(課題3) ・自分の心に響く俳句を1句選び、その理由や、どのように心に響いたのかについて発表し合う。 ◇P158 『『おくのほそ道』俳句地図』にある俳句も参考にさせるとよい。 4 学習を振り返る。 ・歴史的背景に注意して読むことで、その場面への理解や印象にどのような変化があったか、自分の言葉でまとめる。 ・作者のものの見方や感じ方について考えたことは何か、自分の言葉でまとめる。 ・友達の発表の中で、印象に残ったものを挙げる。	る。((3)ア) →歴史的背景に注意して作品を読み、作者が何に感動したのかを理解している。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。((3)イ) →心に響いた俳句やその一節を引用し、その理由などを発表している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →現代の価値観と比較したり、作者が感動した歴史的背景を確かめたりして、作者のものの見方や感じ方について考えている。 【態】作者のものの見方や感じ方について進んで自分の意見を持ち、今までの学習を生かして発表しようとしている。
11月	つながる古典 古典名作選 【書く】古典の言葉を引用し、メッセージを贈ろう 1時間 ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)	1 1 P166 「つながる古典」を通読する。 ・3年間で出会った古典作品のつながりを感じながら、学習を振り返る。 →P286【資】「古典・近代文学の名作」 ◇年表を基に、作品のジャンルや成立時期、作品どうしのつながりを確認させる。 2 P168 「古典名作選」を朗読する。 ・気に入ったものがあればノートに書き出す。 ◇他の詩歌や文学作品なども参考にさせるとよい。 →P38 「学びて時に之を習ふ」 →P42・98・144・185 「季節のしおり」 →P286【資】「古典・近代文学の名作」 3 古典の言葉を引用し、メッセージを贈る。 ・P170の手順を読み、これまで学習した古典の文章の中から、気に入った言葉や心に響いた言葉、誰かに贈ってみたい言葉を選ぶ。 ◇P42・98・144・185 「季節のしおり」、P168 「古典名作選」などを参考にさせてもよい。 ・どのような状況の、誰に、どのような目的でメッセージを贈るのかを考える。 ・自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、選んだ古典の言葉の意味と、伝えたい思いとの関連を意識してまとめる。 4 文章を友達と読み合い、学習を振り返る。 ・相手の状況や自分の思いにふさわしい言葉や文章の種類を選択したか、自分の言葉でまとめる。 ・論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫したか、自分の言葉でまとめる。	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア) →古典の名作の歴史的背景や後世への影響を知り、その一節を読んでいる。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。((3)イ) →古典の言葉を引用して、メッセージを書いている。 【思・判・表】「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、相手の状況を踏まえて構成を工夫してメッセージを書いている。 【態】長く親しまれている言葉や古典の一節を進んで引用するなどし、今までの学習を生かしてメッセージを書こうとしている。
7 価値を生み出す			
11月	それでも、言葉を	1	【目標】や「学習の見通しをもとう」で本教材のね 【知・技】具体と抽象など情報と情報との関

	4 時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★論説などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	2-3 4	らいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読し、言葉に対する筆者の考えを捉える。 ・注意する語句を調べる。 ・納得したこと・共感したこと、わからないこと・疑問に感じたことなどの観点に沿って、本文に線や記号を書き込みながら読む。(課題1-①) →P135 カギ 「文章を批判的に読み、評価する」 ◇P177 「筆者が担当するコラムから」を導入として授業の初めに読ませてよい。 ◇本文を通読し終えたら、書き込んだ箇所を共有させるとよい。 ・「もっとよく理解したい。」「さらに掘り下げてみたい。」と感じたところをグループで出し合い、理解を深める課題を決める。(課題1-②) 2 筆者の見方・考え方に対する理解を深める。(課題2) ・グループで決めた課題について、言葉の意味を確かめたり、具体的な事例を挙げたりしながら話し合い、理解を深める。 →P179 言の葉 ◇まずは課題に対して個々で考えさせてからグループで意見を交流させる。 3 言葉との向き合い方について自分の意見をもつ。(課題3) ・筆者が用いた言葉を使って自分の考えをまとめ、発表する。 →P179 カギ 「文章を読んで、自分の意見をもつ」 →P258 窓 『学びのカギ』一覧(説明文) → 二次元コード 「学びの地図」 ◇P177 「筆者が担当するコラムから」を参考にさせてよい。 4 学習を振り返る。 ・どのような事例を挙げて、抽象的な概念への理解を深めたか、自分の言葉でまとめる。 ・筆者の見方・考え方に対する理解を深める中で、自分の考えはどのように深まり、広がったか、自分の言葉でまとめる。 ・自分の考えを発表するときに、わかりやすさや説得力という観点で、納得のいく説明ができたと思う点を挙げる。	係について理解を深めている。(2)ア) →抽象的な概念を表す語句について、言葉の意味を辞書などで確かめたり、具体的な事例を挙げたりしながら理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章を多角的に検討したり、例証や反証を試みたりして、筆者の考えについて理解を深めている。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →文章を批判的に読んだり話し合ったりすることを通して、言葉に対する自分の意見を確立している。 【態】言葉や社会、人間などについて粘り強く自分の意見をまとめ、今までの学習を生かして理解したことや考えたことについて話し合ったり発表したりしようとしている。
12月	漢字3 漢字のまとめ 漢字に親しもう4 1 時間 ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう	1	1 二年生までに学習した漢字を復習する。 ・漢字の部首、音訓、成り立ちや熟語の構成、送り仮名などを確認しながら問題に取り組む。 ◇同訓異字や同音異義の漢字を調べ、使い分けができるようにさせる。 2 三年生で学習した漢字を復習する。 ・熟語の読み方、造語力などに気をつけながら問題に取り組む。 →P122 「言葉3 慣用句・ことわざ・故事成語」 →P250 「語彙ブック」(慣用句・ことわざ・四字熟語・故事成語) →P317 窓 「三年生で学習した音訓」 → 二次元コード 「漢字一覧表」 ◇漢字辞典や国語辞典などを使って調べさせる。 ◇慣用句・ことわざ・故事成語などの意味を調べさせる。	【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →漢字の組み立てと部首、音訓、成り立ち、熟語の構成、同じ訓・同じ音をもつ漢字、送り仮名、熟語の読み方、漢字の造語力など、3年間で学習した漢字の内容を理解している。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

	力、人間性等)		3 P182「漢字に親しもう4」の問題に取り組む。 →P240「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P306【資】「三年生で学習した漢字」 →P317【資】「三年生で学習した音訓」 →P318【資】「常用漢字表」 →【二次元コード】「漢字一覧表」 ◇熟語の構成、部首、漢字の音訓などの既習事項を思い出させる。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。	
12月	【話し合い（進行）】 話し合いを効果的に進めよう 1 時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表 A(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★互いの考えを生かしながら議論や討論をする。(思・判・表 A(2)イ)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 進行役の最後の発言に続く形で、参加者から出た意見を整理する。 ・黒板アートについての話し合いの様子を視聴し、課題に取り組む。 →【二次元コード】「話し合いの様子」 ◇話し合いの経緯や目的、基準となる条件を捉えさせる。 ◇これまでの話し合いで既に合意を得られた内容や、参加者の意見を整理させる。 2 進行役の発言の効果を考える。 ・P183に挙げられた進行役の発言は、目的に即した話し合いをするうえで、どのような効果があったか、考える。 ◇多様な考えをもった人が参加する話し合いにおいて、互いの発言を生かしながら合意形成を図るために、進行役がどのように働きかけているか考えさせる。 3 学習を振り返る。 ・話し合いを効果的に進めるための工夫を確かめる。	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →抽象化の技能を生かし、複数の発言の共通点を抽出し、結び付けてまとめている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ) →合意形成に向けた話し合いを効果的に進行するための工夫について考えている。 【態】積極的に進行の工夫とその効果を分析し、今までの学習を生かして話し合いの効果的な進め方について考えようとしている。
12月	季節のしおり 冬 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	-	・冬の気象にまつわる言葉や、冬の情景を詠んだ俳句や詩、名文を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P62「俳句の可能性」、P66「俳句の創作教室」、P68「俳句を味わう」、P150「君待つと」などの資料として用いてもよい。 ◇冬をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →作品中の「冬」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
12月	合意形成に向けて話し合おう 課題解決のために会議を開く 4 時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりす	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 議題を決める。 ・地域社会や学校生活の中から課題を見つけ、クラスで一つ議題を決める。 →P262【資】「発想を広げる」 →【二次元コード】「表現テーマ例集」	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) →提案の根拠に着目して妥当性を吟味したり、複数の発言の共通点を基に抽象化してまとめたりしている。
		2	2 グループで提案を考える。 ・ブレインストーミングでアイデアを出す。 ・グループごとに提案を一つに絞り込む。	【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ)

	ることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★互いの考えを生かしながら議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)	3-4	→P267【資】「話し合いの方法」 ◇ブレインストーミングでは、自由にアイデアを出させる。 ◇出たアイデアについて、根拠や意義を考え、説得力のある提案に絞らせる。 ◇タブレット端末などを使用し、グループの考えをスライドにまとめ、発表させるのもよい。 3 全体会議を開く。 ・司会と書記を決め、クラスで話し合う。 ①グループごとに案を発表する。 ②提案を分類・整理し、観点を決めて検討する。 ③互いの意見を生かし、合意形成を図る。 →P183「[話し合い(進行)]話し合いを効果的に進めよう」 →【二次元コード】「会議を開く」 →P187【カギ】「合意を形成する」 →P188【言の葉】 →P260【資】「『学びのカギ』一覧」(話す・聞く) →P267【資】「話し合いの方法」 →P337【資】「ICT活用のヒント」 →【二次元コード】「学びの地図」 ◇提案が目的に合っているか、実現可能かなどの観点から分析させる。 ◇タブレット端末などを使用し、座標軸などで提案を可視化しながら整理させてもよい。 ◇話し合いで出た提案を思考ツールで評価し、クラスで共有させてもよい。 4 合意形成のポイントを振り返る。 ・グループやクラスでの話し合いを振り返り、合意形成のために必要なことや改善点を伝え合う。 ・どのような共通点を基に、複数の発言を抽象化したか、自分の言葉でまとめる。 ・互いの意見を生かして合意を形成する際に、どのような発言が効果的だったか、確かめる。 ・合意形成するために、自分が今後大切にしたいと思ったことを挙げる。 ◇P186「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	→合意形成に向けて納得できる結論を出すために、提案の意義や実現性を検討したり、互いの発言を生かしたりして話し合っている。 【態】合意形成に向けて粘り強く考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。
いつも本はそばに				
12月	本は世界への扉 天、共に在り 極夜行 読書案内 本の世界を広げよう 1時間 ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識すると	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 教科書本文を読み、筆者の生き方について自分の考えをもつ。 ・作品の中で共感したことや疑問に感じたことなどを話し合う。 ◇写真や本の一節、年表などを参考に、筆者に興味をもたせたり、世界で活動する人々について考えを広げさせたりする。 →【二次元コード】「漢字の練習」 2 P198「本の世界を広げよう」を読み、読んだ本や、興味をもった本について語り合う。 ・読書が自分の生き方や社会との関わりをどのように支えてきたかを考える。 ◇これから読んでみたいジャンルや作家を挙げさ	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ) →ノンフィクションを読み、読書によって、さまざまな状況に生きる人々やそこで活動する人々について知ったり、読書が自分の生き方を支えてくれることに気づいたりしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →読書を通して、考えたことや気づいたことを読書ノートに書いたり、語

	ともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★ノンフィクションを読み、理解したことや考えたことについて討論したり、文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)		せるとよい。 →P86「読書を楽しむ」 →P88『私の一冊』を探しにいく」 →P94「本の世界を広げよう」 →P268【資】「二つの悲しみ」 →P272【資】「高瀬舟」	り合ったりしている。 【態】進んで読書の意義と効用について理解し、今までの学習や経験を生かして、読んだ本や興味をもった本について語り合おうとしている。
--	---	--	--	---

8 未来へ向かって				
1月	温かいスープ (2時間) ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★随筆を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1-2	◇「温かいスープ」「アラスカとの出会い」「律儀な桜」「わたしを束ねないで」は、4教材合わせて6時間配当となっている。学年やクラスの状況に応じて、軽重をつけたり一体的に扱ったりするなど、柔軟に扱うとよい。 リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 時代背景や筆者の置かれた状況を捉えながら全文を通読する。 ・当時の状況がわかる語句や文に線を引き、筆者の思いを想像する。 ◇脚注を参考に当時の世界状況を想像させ、感想を共有させる。 2 筆者の考える「国際性」とは何かを読み取る。 ・「月末のオムレツの夜」のエピソードを読み、筆者とレストランの母子それぞれの思いを読み取る。 ◇「温かいスープ」という題名に込めた筆者の思いを想像させる。 3 国際性について自分の考えをもち、伝え合う。 ・筆者の考える「国際性」の基本とは何かを捉え、それについて自分の考えをもち、伝え合う。 ◇国際性の基本とは何か、文章中の語句を引用して自分の考えをまとめさせる。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ →文章に表現された人と人との関係を通して、国際性とは何かを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →自分の考え方や作品に表現された考え方を比較して、「国際性」とは何かについて、自分の考えをまとめている。 【態】人間、社会などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。
	アラスカとの出会い (2時間) ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★随筆を読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	1-2	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →【二次元コード】「漢字の練習」 ◇脚注を参考に筆者が経験したことや考えたことについて理解させる。 2 筆者の生き方や考え方を読み取る。 ・一枚の写真との出会いが筆者の人生においてどのような意味をもっていたのか、読み取る。 ・電車から家族の団欒を見たときの経験から、筆者が何を伝えようとしているのか、読み取る。 ・本文の語句を根拠に筆者のものの見方・考え方を読み取る。 ◇最後の段落に注目させ、筆者がこの文章を通して読者に伝えたかったことを考えさせる。 3 筆者の生き方や考え方について話し合う。 ・筆者の生き方や考え方について、自分の考えをもち、話し合う。 →P190「天、共に在り」 ◇最終段落の筆者の考えに対する自分の考えをま	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ →筆者の人生において、本との出会いがどのような意味をもっていたのかを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →文章から読み取った筆者のものの見方・考え方や、友達との交流を受けて、自分の生き方について考えをまとめている。 【態】人間、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。

	律儀な桜 (1時間) ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★随筆を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	とめさせる。 リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・時系列に注意しながら、筆者が経験したこと、考えたことなどについて理解する。 2 人と自然、時とともに変わるもの、変わらないものに思いをはせる。 ・筆者のものの見方・考え方について、自分の考えをもつ。 ◇最終段落や「律儀な桜」という題名に着目させ、筆者がどのようなことを考え、読者に何を伝えようとしているかを考えさせる。 ◇自分の知識や経験と比べながら、考えたことを文章にまとめさせる。	【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ →桜を巡る筆者の経験や考えを読み取ったり、読書が人と自然について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →自分の知識や経験と結び付けながら文章を読み、人と自然に対する自分の考えをもっている。 【態】人間、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして文章にまとめようとしている。
	わたしを束ねないで (1時間) ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 朗読を通して、詩のもつイメージを捉える。 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ・気になった言葉や表現上の特徴などを抜き出し、気づいたことを述べ合う。 ◇繰り返し使われている言葉や構成、表現技法などについて、気づいたことを話し合わせる。 2 作者の思いを読み取り、自分の可能性について考える。 ・詩に込めた作者の思いを想像し、現代に生きる自分たちの可能性について話し合う。 ◇詩の歴史的背景を確認させるとよい。 →P292 資料「日本文学の流れ」	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ →選ばれた言葉の語感を基に、作者が詩に託したイメージを捉えている。 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、社会と人間、自分の可能性について考えている。 【態】詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の価値や自分の可能性について考えをまとめようとしている。
1月	三年間の歩みを振り返ろう 冊子にまとめて、発表会をする 5時間(話聞①書④) ◎話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ) ◎場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 冊子のテーマを決める。 ・印象に残っている学習を思い出し、自分にとっての三年間の学びを総括するテーマを考える。 ◇教科書や学習記録を読み返したり、友達と話したりして、三年間の学習を振り返らせる。 ◇卒業文集や自分史をまとめる学習などに発展させてもよい。	【知・技】話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)ウ →自分で設定したテーマと内容、目的に合う文章の種類を検討している。 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →自分が伝えたいことが効果的に伝わるように、場に応じて工夫しながら話している。 ・「書くこと」において、文章の種類を選
		2	2 冊子の内容と構成を考える。 ・テーマを基に収録する記事を決め、それが効果的に伝わる文章の種類を選ぶ。 ・冊子全体と紙面の構成を考える。	

	理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア) ★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)	3-4 5	◇必要に応じて、見出しやキャッチコピー、レイアウトなどの例を示すとよい。 3 冊子を作る。 ・三年間の学びを冊子にまとめる。 4 グループで発表会を開く。 ・冊子の内容を紹介し、それと関連させて「これまで」と「これから」の学びについて発表する(各3分)。 →P32「説得力のある構成を考えよう」 ・質疑応答をし、考えを深める(各2分)。 →P221【カギ】「これからの学びを展望する」 →P223【言の葉】 →P260【資】『『学びのカギ』一覧』(話す・聞く、書く) →【二次元コード】「学びの地図」 5 学習を振り返る。 ・文章の種類とその特徴に関する知識をどのように生かしたか、自分の言葉でまとめる。 ・記事の内容を効果的に伝えるために、どのように構成を工夫したか、自分の言葉でまとめる。 ・場の状況に応じて話すために、どのようなことに気をつけたか、自分の言葉でまとめる。 ・友達の発表を聞いて、気づいたことや、さらに考えが深まったことを挙げる。 ◇P220「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →記事の内容を効果的に伝えるために、紙面と文章の構成を工夫している。 【態】粘り強く言葉を選んだり構成を工夫したりし、今までの学習を生かして、文章にまとめたり、友達の発表を聞いて質問したり評価したりしようとしている。
2月	初日 漢字に親しもう5 2時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れ	1-2	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 朗読を通して、詩のもつイメージを捉える。 ・これまでの詩の読解を振り返る。 ・気になった言葉や表現上の特徴などを抜き出し、気づいたことを述べ合う。 ◇抽象的な表現や構成、表現技法などについて気づいたことを話し合わせる。 2 詩の中の言葉や表現から、描かれた情景や心情を捉え、その内容について話し合う。 ・詩に描かれた情景や作者の思いを想像し、その内容について話し合う。 ◇詩の中の言葉を根拠として挙げながら、詩に描かれた情景や作者の思いを想像させる。 3 P226「漢字に親しもう5」の練習問題に取り組む。 ・言葉の意味を辞書で確認しながら漢字を読んだり書いたりする。 →【二次元コード】「漢字一覧表」 →P240「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P306【資】「三年生で学習した漢字」	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ) →選ばれた言葉の語感を基に、作者が詩に託したイメージを捉えている。 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、人間、社会、自然などについて考えている。 【態】詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の内容について話し合おうとしている。 【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。((1)ア) →音訓や部首、熟語の構成などに気を

	ることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		→P317【資】「三年生で学習した音訓」 →P318【資】「常用漢字表」 ◇漢字の音訓、部首、熟語の構成などの既習事項を思い出させる。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。	つけて、これまでに学習した漢字を読んだり書いたりしている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
--	--	--	---	--

学びを深める

3月	国語の力試し 3時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝	1 1 P243-246の問題に取り組む。 ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 ◇タブレットやパソコンで問題に取り組んだり、解答を確認したりさせるとよい。 →【二次元コード】「国語の力試し」 ◇「話す力・聞く力」の問題を解くときには、教科書の文章を読ませてもよいが、二次元コードから音声聞かせ、メモを取らせたほうが望ましい。 →【二次元コード】「国語の力試し(問題)」 2 2 P242の二次元コードから、発展問題に取り組む。 ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 →【二次元コード】「国語の力試し」 3 3 振り返る。 ・間違ったところを改めて見直したり、それぞれの設問に関連する教材に立ち戻って、学習の要点を確認したりする。 →P119【カギ】「文学作品を批評する」 →P135【カギ】「文章を批判的に読み、評価する」 →P187【カギ】「合意を形成する」 →P55【カギ】「論理の展開を考える」 →P137【カギ】「論理の展開や表現を工夫する」 →P122「言葉3 慣用句・ことわざ・故事成語」 →P146「和歌の世界」	【知・技】 ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →ことわざや故事成語、四字熟語の意味や使い方を正しく理解している。 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) →歴史的仮名遣いに注意して和歌を読み、解釈しながら、親しんでいる。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →回想場面を織り込んだ展開のしかたとその効果について捉えている。 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章に表れている筆者の言葉に対する見方や考え方について、自分の考えをもっている。 ・「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ) →話し合いの内容を分析し、それぞれの発言がどのような役割を果たしているか、捉えている。 ・「書くこと」において、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →意見と根拠、それらを結び付ける無理のない理由づけを示して、考えをまとめている。 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)
----	--	--	--

	え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★互いの考えを生かしながら議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ) ★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)		→ポスター作りの目的を意識しながら、資料の特徴をまとめている。 【態】粘り強く文章や資料を読み取り、今までの学習を生かしてそれぞれの学習課題に取り組もうとしている。
--	---	--	--